

# 地域再生計画

## 1 地域再生計画の名称

四万十流域サイクルロード整備プロジェクト

## 2 地域再生計画の作成主体の名称

四万十市

## 3 地域再生計画の区域

四万十市の全域

## 4 地域再生計画の目標

四万十川は 196 k mの四国最長の大川で、険しい山間地を蛇行を繰り返しながらもゆったりとした流れで太平洋へと注いでいる。日本最後の清流と言われ、長良川（岐阜県）と柿田川（静岡県）とともに、日本三大清流のひとつである。そして、平成 21 年 2 月には、多様な生態系が生まれ、里山などの原風景が残り、山や川とともに生き、調和しながら営まれてきた人々の生活とともにある美しい景観や文化が息づく四万十川流域が「重要文化的景観」に選定されている。本市は、四万十川の中流域から下流域に位置し、増水時に川に沈んでしまうように設計された欄干のない橋である沈下橋が 9 か所あり、緑まぶしい山々に青く澄んだ四万十川、そこに架かる沈下橋という風景は、川と人との関わりが感じられる場所である。また、豊富な水量と広い川幅や河原あり、多種多様で豊富な生き物が息づき、アユの火振漁、ゴリのガウ曳き漁、ウナギ、エビの柴づけ漁などの伝統漁法が今なお残る、人と川の密接な関わりが四万十川の魅力であり、美しい景観をかたち作っている。

こうした背景をもとに本市では、『川とともに生きるまち』をコンセプトに四万十川を基軸としたまちづくりを進めていくなか、【四万十流域サイクルロード整備プロジェクト】として、この四万十川の魅力が凝縮した中流域から下流域に至るサイクルロードを整備するとともに、景観の美しさはもとより川辺の暮らしや文化、そして豊かな食など、本市の本質的な価値を発信することにより、サイクリングを通じた宿泊滞在型観光への移行を図り、市経済の活性化に繋げる。

なお、将来的な構想として、四万十川全長 196 k mに至るサイクルロードの整備を見据えており、当該プロジェクトをきっかけとして流域 5 市町の本市をはじめ、四万十町、中土佐町、津野町、梶原町が一体となった取り組みへと導き、国内外から誘客できる観光地づくりを推進する。

【数値目標】

事業	四万十流域サイクルロード整備プロジェクト			年月
	KPI	レンタサイクル利用状況	サイクリスト宿泊者数	
申請時	5,290 台	2,120 人	1,970 人	H28.3
初年度	5,370 台	2,540 人	2,490 人	H29.3
2 年目	5,450 台	3,050 人	3,140 人	H30.3
3 年目	5,530 台	3,660 人	3,960 人	H31.3
4 年目	5,610 台	4,400 人	5,000 人	H32.3

※外国人観光入込客数：（一社）四万十市観光協会観光案内者数

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2（3）に記載

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例

（内閣府）：【A2007】

（1）事業名：四万十流域サイクルロード整備プロジェクト

（2）事業区分：観光業の振興

（3）事業の目的・内容

（目的）

四万十川は 196 km の四国最長の大川で、険しい山間地を蛇行を繰り返しながらもゆったりとした流れで太平洋へと注いでいる。日本最後の清流と言われ、長良川（岐阜県）と柿田川（静岡県）とともに、日本三大清流のひとつである。そして、平成 21 年 2 月には、多様な生態系が育まれ、里山などの原風景が残り、山や川とともに生き、調和しながら営まれてきた人々の生活とともにある美しい景観や文化が息づく四万十川流域が「重要文化的景観」に選定されている。本市は、四万十川の中流域から下流域に位置し、増水時に川に沈んでしまうように設計された欄干のない橋である沈下橋が 9 か所あり、緑まぶしい山々に青く澄んだ四万十川、そこに架かる沈下橋という風景は、川と人との関わりの感じられる場所である。また、豊富な水量と広い川幅や河原あり、多種多様で豊富な生き物が息づき、アユの火振漁、ゴリのガウ曳き漁、ウナギ、エビの柴づけ漁などの伝統漁法が今なお残る、人と川の密接な関わりが四万十川の魅力であり、美しい景観をかたち作っている。

こうした背景をもとに本市では、『川とともに生きるまち』をコンセプトに四万十川を基軸としたまちづくりを進めていくなか、【四万十流域サイクルロード整備プロジェクト】として、この四万十川の魅力が

凝縮した中流域から下流域に至るサイクルロードを整備するとともに、景観の美しさはもとより川辺の暮らしや文化、そして豊かな食など、本市の本質的な価値を発信することにより、サイクリングを通じた宿泊滞在型観光への移行を図り、市経済の活性化に繋げる。

なお、将来的な構想として、四万十川全長 196 k mに至るサイクルロードの整備を見据えており、当該プロジェクトをきっかけとして流域 5 市町が一体となった取り組みへと導き、国内外から誘客できる観光地づくりを推進する。

#### (事業の内容)

##### ・四万十流域サイクルロード整備プロジェクト事業

昨今のサイクリングブームを受け、本市及び広域市町村圏のサイクルイベントとして、本市をはじめ幡多地域の宿毛市、土佐清水市、黒潮町、大月町、三原村と高幡地域の四万十町が連携した取り組みの四万十・足摺無限大チャレンジライド、愛媛県、高知県の両県をはじめ、愛媛県側の宇和島市、鬼北町、松野町、高知県側の四万十市、四万十町が連携して実施する四万十・南予横断 2 リバービューライド、四万十川流域 5 市町で四万十ドラゴンライドを開催するなど、またサイクリストの利便性を高める取り組みとして、レンタサイクルの貸出やサイクルツーリストの休憩所、簡単な自転車の修理のできる拠点施設としてのエイドステーションを四万十川流域の沿線へ整備等も進めてきているが、サイクリングロードの整備やルートの宣伝が不十分で、観光客やサイクリストへ四万十流域の素晴らしさが認知されていないため短い時間で観光名所を見て回る通過型観光にとどまる傾向にある。

このような中、本市を主な舞台としサイクリングを題材とした映画「あらうんど四万十カールニカーラン」は、高知県民が選ぶ映画ベストテンの 1 位に輝いたほか、カンヌ映画祭への出品や台湾等の海外でも放映されており、市民の気運の高まりはもとより国内外において「四万十市 = 自転車・サイクリング」といったイメージが浸透してきている。

一方で、四万十川右岸の市道は、車両の往来が少なく、四万十川の原風景や人気の高い沈下橋が楽しめる絶好のサイクルロードとして、観光客に最も多く推奨しているルートであるものの、ルート沿いには雑木等が多く茂り、四万十川が見渡せる魅力ある景観を阻害しているうえ、路面の劣化や損傷も著しく、通行の安全面においても支障が危惧されている。

本市にきた人誰もが「自転車に乗りたくなるまち」を目指す姿として、サイクルロード沿いの景勝地やビューポイントを中心とした四万十川の景観を遮る雑木等の伐採や、路面の補修、安全対策施設等の設置や景観保全等を行うことで、安心・快適なサイクルロードを整備するとともに、国内外において、誘客宣伝活動を行い、サイクリングを通じた宿泊滞在型観光への移行を図り、市経済の活性化を図るものである。

→各年度の事業の内容

#### 四万十流域サイクルロード整備プロジェクト事業

初年度) 整備箇所の調査、選定を実施。4 か年実施計画を作成し、サイクルロードの環境整備に着手する。また、レンタサイクルの拡充を図り、子どもから高齢者までサイクリングを楽しめる

環境を整備する。

併せて、エイドステーション等サイクリングに係る情報を網羅したルートマップ（多言語版）や誘客キャンペーンプロモーションムービーを作成するとともに、国内はもとより海外においても積極的に誘客活動を実施する。さらに、市や関連団体（観光協会、商工会議所等）のHP、SNS等により市内外に広く当該プロジェクトを発信しPRを行う。

またサイクルガイドの養成にも取り組み、当該ロード沿線のコースの紹介や危険個所の情報提供などにより、当該ロードを巡る観光客の利便性及び安全性を高める。

2年目）初年度に引き続き環境整備を実施。下記実施場所のうち①のルートが完了することからエイドステーション等サイクリングにかかる情報を網羅したルートマップ（多言語版）の作製及び市や関連団体のHP、SNS等により当該プロジェクトおよび観光情報等をPRする誘客宣伝活動を実施する。また前年度に引き続きサイクルガイドも養成する。

3年目）前年度から引き続き環境整備を実施。実施場所のうち②のルートが完了することから前年度作製したマップのリニューアル及び市や関連団体のHP、SNS等による情報発信を強化する。

4年目）前年度に引き続き環境整備にあたり、当該ロードの総延長 18,800mの整備が完了。前年度作製したルートマップや市及び関連団体のHP、SNS等の情報を更新する。

<環境整備等実施箇所及び事業量>

ルート	距離
① 入田—佐田沈下橋—三里沈下橋	4,900m
② 川登大橋—高瀬沈下橋—勝間沈下橋間	6,500m
③ 口屋内沈下橋—岩間沈下橋	7,400m
合計	18,800m
総延長 18,800mを下記のとおり4年間で実施	
●初年度 2,300m	
●2年目 5,500m	
●3年目 5,500m	
●4年目 5,500m	

(4) 地方版総合戦略における位置付け

四万十市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年10月策定）において、以下のとおり位置付けており、本プロジェクトは、まさにこの目標の達成に直接寄与するものである。

基本目標1 地産外商により安定した雇用を創出する

◆外商を強化する

2) 観光の振興

①滞在型の観光商品づくり

観光ニーズ、観光スタイルが多様化し、従来の「見る、食べる」観光に加え「交流、体験」を目的とした観光ニーズが強くなっています。

本市が有する豊富な地域資源（山川海すべてそろったフィールド、豊かな農林水産物、食、歴史・文化など）を活かし、「食」の磨き上げ、市内での回遊、滞在を促す体験型観光メニューや宿泊と連動した観光商品づくりを進め、市全域をフィールドとした面的に広がりのある通年型・滞在型の観光地づくりを推進します。

《KPI》

評価指標	基準値	目標値（H31）
観光入込客数	125万6,000人（H25）	130万人
市内宿泊者数	21万1,000人（H25）	22万人
体験、宿泊等のプラン造成件数	—	10件
体験型観光受入研究会加入団体数	23団体（H26）	30団体
一人当たりの観光消費額	14,700円（H25）	18,150円
レンタサイクル利用者数	4,307人（H26）	5,000人

《具体的な事業》

- ・地域資源を活かした通年型・滞在型の観光商品づくり  
（四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進事業（観光商品開発）、体験型観光受入推進事業、グリーンツーリズム・スポーツツーリズム推進事業 等）
- ・四万十の“食”の魅力を活かした観光商品づくり  
（「（仮称）四万十の食研究会」設立・「四万十の食」調査・研究事業、「中村の塩たたき」普及事業、食の発信・普及イベント等開催 等）
- ・回遊性と賑わいづくり、宿泊と連動した観光商品づくり  
（自転車観光受入体制整備事業、「まちなか」体験メニュー・宿泊プラン（食・体験・イベント等のセットプラン）造成事業 等）

（5）事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

事業	四万十流域サイクルロード整備プロジェクト			年月	
	KPI	レンタサイクル利用状況	サイクリスト宿泊者数		外国人観光入込客数※
申請時		5,290台	2,120人	1,970人	H28.3
初年度		5,370台	2,540人	2,490人	H29.3
2年目		5,450台	3,050人	3,140人	H30.3
3年目		5,530台	3,660人	3,960人	H31.3
4年目		5,610台	4,400人	5,000人	H32.3

※外国人観光入込客数：（一社）四万十市観光協会観光案内者数

(6) 事業費

(単位：千円)

四万十流域サイクルロード整備プロジェクト	年度	H28	H29	H30	H31
	事業費計	13,003	16,509	16,509	16,509
区分	旅費	864	2,045	2,045	2,045
	需用費	3,329	3,500	3,500	3,500
	役務費	36	0	0	0
	委託料	3,000	0	0	0
	工事請負費	4,000	10,000	10,000	10,000
	補助金	1,774	964	964	964

(7) 寄附の見込額

(単位：千円)

四万十流域サイクルロード整備プロジェクト	年度	H28	H29	H30	H31
	事業費計	13,003	16,509	16,509	16,509
	寄附額計	300	100	100	100
寄附法人	エフビットコミュニケーションズ株式会社	100	100	100	100
	観光業・自転車関連業等	200	0	0	0

(8) 事業の評価の方法 (PDCA サイクル)

(評価の手法)

総合戦略における事業等の進捗管理にあっては、庁内組織で市長を本部長とする「四万十市まち・ひと・しごと創生推進本部」(以下「推進本部」という)とともに、外部有識者組織の「四万十市まち・ひと・しごと創生会議」(以下「創生会議」という)で実施する。創生会議は、総合戦略の策定にあたり専門的な見地から意見を聴取し実効性のある戦略を策定するために設置した組織であり、この創生会議を続けて戦略の推進組織として活用し、策定から推進まで切れ目のない体制としている。

本事業においても、設定した重要業績評価指標 (KPI) を基に、実施した事業・施策の効果を検証して、必要に応じて見直しを行い、より効果的な、より実効性のある事業・施策に磨き上げを行う。

また、創生会議等の検証結果等を踏まえ、市議会に事業実施状況の報告を行い、事業効果等

について検証する。あわせて意見や提案をいただき、必要に応じて事業の見直しに繋げる。

<評価検証組織>

四万十市まち・ひと・しごと 創生推進本部（28名）	本部長：市長 副本部長：第1副市長 委員：第2副市長、教育長、関係各課長等
四万十市まち・ひと・しごと 創生会議（13名）	【産業界】中村商工会議所、西土佐商工会、四万十市観光協会 【行政機関】高知県産業振興推進部、幡多福祉保健衛生所 【大学・教育機関】高知大学、四万十市教育研究所 【金融機関】四万十市金融協会 【労働関係】高知労働局労働基準部監督課、山間屋 【その他】子育て応援団「ほっと・ポケット」、子育てサークルママ&チルドレン、地域移住サポーター

(評価の時期・内容)

毎年度 11 月（上半期）、3 月（下半期）頃に推進本部と創生会議による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針等を決定する。

(公表の方法)

目標の達成状況については、検証後速やかに四万十市ホームページ上で公表する。

(9) 事業期間 平成 28 年 9 月～平成 32 年 3 月

5 - 3 その他の事業

該当なし

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 32 年 3 月 31 日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7 - 1 目標の達成状況に係る評価の手法

総合戦略における事業等の進捗管理にあつては、庁内組織で市長を本部長とする「四万十市まち・ひと・しごと創生推進本部」（以下「推進本部」という）とともに、外部有識者組織の「四万十市まち・ひと・しごと創生会議」（以下「創生会議」という）で実施する。創生会議は、総合戦略の策定にあたり専門的な見地から意見を聴取し実効性のある戦略を策定するために設置した組織であり、この創生会議を続けて戦略の推進組織として活用し、策定から推進まで切れ目のない体制としている。

本事業においても、設定した重要業績評価指標（KPI）を基に、実施した事業・施策の効果を検証して、必要に応じて見直しを行い、より効果的な、より実効性のある事業・施策に磨き上げを行う。

また、創生会議等の検証結果等を踏まえ、市議会に事業実施状況の報告を行い、事業効果等について検証する。あわせて意見や提案をいただき、必要に応じて事業の見直しに繋げる。

<評価検証組織>

<p>四万十市まち・ひと・しごと 創生推進本部（28名）</p>	<p>本部長：市長 副本部長：第1副市長 委員：第2副市長、教育長、関係各課長等</p>
<p>四万十市まち・ひと・しごと 創生会議（13名）</p>	<p>【産業界】中村商工会議所、西土佐商工会、四万十市観光協会 【行政機関】高知県産業振興推進部、幡多福祉保健衛生所 【大学・教育機関】高知大学、四万十市教育研究所 【金融機関】四万十市金融協会 【労働関係】高知労働局労働基準部監督課、山間屋 【その他】子育て応援団「ほっと・ポケット」、子育てサークルママ&amp;チルドレン、地域移住サポーター</p>

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年度 11 月（上半期）、3 月（下半期）頃に推進本部と創生会議による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針等を決定する。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに四万十市ホームページ上で公表する。